

柔道整復師募集案内

YONEDA HOSPITAL

YONEDA HOSPITAL YONEDA CLINIC

はじめに

当院は整形外科単科病院・診療所として、一般的な整形外科疾患の他、スポーツによるケガ、手の外科、人工関節手術や関節リウマチの治療も得意としています。

平成27年秋に耐震建替工事が完了し、外来・入院病室も充実した環境となりました。

患者さん本位の医療を提供するため、医師・看護師・薬剤師・放射線技師・リハビリスタッフ・その他関係職種とともにチーム医療を推進しています。

専門職の経験を積みながら、チームYONEDAの一員として一緒に働きましょう！

経営理念

患者さん中心の医療を目指す

1. 高水準で安全な運動器医療の提供
2. 各医療職種の人材の持ち味を生かす
3. 地域医療連携

YONEDAグループ 5つの目標

1. 双方向コミュニケーション
2. 標準化
3. 全体最適
4. 透明性
5. 継続性



リハビリテーション科のご紹介

病院外来部門では、柔道整復師が予診や診察補助、そして医師の指導のもとに整復・固定・患者指導などを行っています。経験豊富な医師の診察を間近で見ることにより、固定やリハビリにおけるポイント、患者さんへの説明方法などを直接見たり聞いたりすることができる環境です。

また、病院・クリニックのリハビリ部門では理学療法士が勤務しています。

クリニックリハビリ部門では、午前中は高齢者を中心に骨折、脱臼などの急性期外傷後や変形性関節症などの疾患のリハビリを行っており、午後は学生、スポーツ競技者などを中心に前十字靱帯損傷(術前後)や投球障害などスポーツ障害に対するリハビリテーションを行っています。

病院リハビリ部門では、手術後の患者さんを中心に、早期社会復帰のための積極的なリハビリテーションを行っています。

理学療法士も多く勤務しており、お互いに切磋琢磨し、良い環境のリハビリテーション科を作り上げることを目的に、定期的な勉強会を開催し、学会発表などにも積極的な支援を行っています。また、当院は日本相撲協会の指定病院となっており、希望者は大相撲名古屋場所の救護活動にも参加しています。

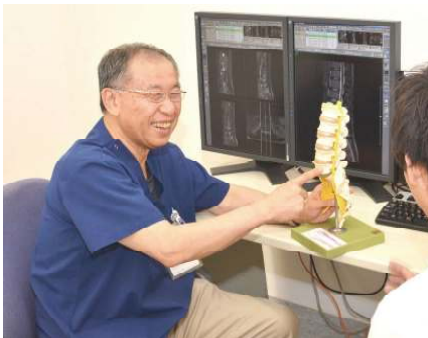
当院は大変多くの患者さんが来院されるため常に忙しい環境です。

ゆったりとした環境で業務を行いたいと考えている方には不向きである職場だと思います。

しかし自分の持っている能力(知識、技術、接遇)を発揮して患者さんに喜んでいただき笑顔が見たい。

また多くの仲間(他職種も含め)とコミュニケーションをとりチームの一員として働きたい。

そして多くの症例を経験することで自分自身が成長したいと思っている方には、大変適した職場であると確信しています。



リハビリテーション科の目標

1. 各職種との良好なコミュニケーションを通して業務の質を確保する。
2. 高水準で安全な保存療法・運動療法を提供する。
3. 職員が気持ちよく働き、互いに成長し続けることのできる職場を目指す。

YONEDAの取り組み

電子カルテ

電子カルテは保存性・真正性・見読性に優れ、毎日の業務を円滑に行うことができます。
当院では患者さんの個人情報や診療内容を全て電子カルテで管理しています。

チーム医療

医師、薬剤師、看護師、柔道整復師など、他職種とのコミュニケーションが非常に活発です。
チーム医療の一員として、広い視野で患者さんを支えることができるようになります。

CSとESの向上

CS（顧客満足度）とおなじように、ES（従業員満足度）の向上が大切だと、当院の経営者は考えています。
ESに対する主な取り組みとして、職員食堂の充実、資格手当などの他、残業時間をできるだけ減らし、有給休暇や育児休暇などを積極的にとることを奨励しています。また、ハラスメントとみなされる行為が黙認されないよう、コンプライアンスに関しても整備を進めています。

リハビリテーション科のPOINT

POINT 1

着実にスキルアップできる！

患者さんにとって最良な医療を提供できるよう、固定や整復などの柔道整復術のテストを適宜行い、合格した柔道整復師のみ患者さんに施術をすることができます。
また、休憩時間や診療終了後を利用して先輩や同僚とともに練習を行ったり、先輩について整復や固定の現場に入り、見学しながら臨床経験を積むことができます。



POINT 2

圧倒的な症例数・外傷数！

当院は人員・施設ともに高い専門性を兼ね備えており、更に接骨院との医接連携が盛んなため、他の医療機関と比較し圧倒的な症例数・外傷数を誇っています。
その中で、初めて受診された患者さんに徒手検査等を行う医療面接、医師の指示の下に行う整復や固定、理学療法士とともに運動器リハビリテーションなど、柔道整復師のスキルを発揮できる環境が整っています。



POINT 3

実践的に医接連携を学べる！

新患の約15%が接骨院からご紹介いただいた患者さんであり、当院では積極的に医接連携を行っています。当院の柔道整復師は、日常診療の第一線である米田病院の外来でも活躍しており、接骨院との情報提供書のやりとりは医師の指導の下に主として柔道整復師が行っています。紹介状や情報提供書の書き方のマナーはもちろん、接骨院の先生方の見立てやその後の連携の流れなどを実践的に学ぶことができます。

POINT 4

ハイレベルな診療現場で最先端の医療が体感できる！

医療機関での治療で非常に重要なのは「診断力」です。当院では、股関節・膝関節専門、小児の骨折、リウマチ、腰椎分離症、アキレス腱断裂などを得意とするハイレベルな医師が在籍しています。また、名古屋大学整形外科医局の各専門班に所属する非常勤医師(脊椎／腫瘍／リウマチ／手の外科)が、大学から正式に毎週巡置されており、最善の診断と診療方針の決定をスピーディーに行うことができます。

さらに「診断力」を高めるため、高性能の画像診断装置により、さらに詳しく病態を把握し正確に診断することが可能です。このように当院では、最先端の知識と技術を兼ね備えた医師とコミュニケーションを取りながら、チーム医療を推進しています。

POINT 5

万全の患者さんサポート体制！

入院リハビリを行う病院、通院リハビリを行うクリニックの両施設の連携により、「入院前リハビリ・診察→入院中のリハビリ→退院後リハビリ・診察」の一連の流れに対するフォロー体制も整備しています。

POINT 6

院内勉強会・院外発表のバックアップ！

昼の休憩時間などを使い、先輩や後輩と固定・整復などの練習や相談ができるだけでなく、医師も参加する院内勉強会で高い評価を得た内容については、学会発表が全面的に支援されます。これまでに、日本整形外科スポーツ医学会学術集会、日本足の外科学会学術集会、日本臨床スポーツ医学会学術集会などの大きな学会で、当院の柔道整復師たちが発表を行いました。



POINT 7

充実した医療機器！

超音波画像診断装置・筋電図・等速性筋力測定装置などの医療検査機器が充実しており、それらを使用し知識を深めることができます。動作解析設備も備えており、投球や歩行などの研究も可能です。

POINT 8

仕事とプライベートの両立を応援！

YONEDAでは有給休暇の取得を奨励しており、リフレッシュをしっかりとできるような体制を整えています。有給休暇の取得は、健康だけでなく職場の安全にもつながっています。

1日の流れ（例）

[1日勤務の日（月・火・水・金）]

8:30	業務開始 朝礼 準備 カルテチェック
9:00	午前の診察開始 診察補助 予診 固定 など ※クリニックの受付補助・診察補助あり
12:30	休憩 昼食 会議 勉強会 など
15:00	午後の診察開始 診察補助 予診 固定 など ※クリニックの受付補助・診察補助あり
18:30	業務終了



[半日勤務の日（木・土）]

8:30	業務開始 朝礼 準備 カルテチェック
9:00	午前の診察開始 診察補助 予診 固定 など ※クリニックの受付補助・診察補助あり
12:30	業務終了





新入職員研修

入職初日には、柔道整復師の業務に関するガイダンスのほか、接遇研修や施設案内、出勤・退勤ルールの確認などを行います。この日から、米田病院職員としての新たな日々が始まります！

指導体制

「半年～10ヶ月程で自立して業務を行えるようになること」を目標としています。

自立した後も、もちろん、アドバイスやフォローは継続していきます。

教育係以外にも複数名の先輩がフォローにあたるため、多角的視野を養うことが出来ます。

※教育体制は年度毎に検証、実施をくり返しています。

4月 社会的基礎ルール、事務的業務、施設基準の理解

5月 宿直開始（1～2回/1ヶ月）

4月～翌1月 予診、整復（術者・助手）、固定（ギプス・プライトン・アルフェンス）、リハビリ、松葉杖指導、物療の取扱、各種書類の作成方法について順次学ぶ

- POINT!**
- ☐ 先輩の患者さんへの対応を見学したり、教育係の指導を受けながら自立を目指します。
 - ☐ まずは基本的な項目（接遇含む）から学びます。
 - ☐ 習熟度を確保するため、毎月テストを行い自立度を判断します。クリアすればSTEP UP!!
 - ☐ リハビリは理学療法士の指導やフォローがあり、より専門的な知識・技術が身につきます。



翌1月頃 自立!!



フォロー体制

教育係とともに業務手順の確認・評価を行いながら、無理なく進めていく体制をとっています。一方的に進むのではなく、個々の技量にあわせて進めていきます。



退職者の声

当院に勤務する柔道整復師の多くは、3年間の勤務を経て、新たなステージに向けて「卒業」していきます。
米田病院で柔道整復師としてのキャリアをスタートし、2025年3月に退職した方々の声をご紹介します。



鈴木 幹汰 さん
3 年間勤務

私が米田病院に入職した理由は、リハビリテーションだけでなく柔道整復師らしく患者様に対してしっかりとしたギブス固定や包帯固定を施行できるようになるためです。

現代の需要としては、リハビリテーションの方が高いと私自身も感じます。しかし、自身が接骨院を開業した際に急性外傷をみる機会が少なからず訪れると思います。その際、しっかりと固定が出来きなくては柔道整復師として通用しないと考えております。

長いようで短い研修期間でしたが、固定については自信を持って患者様に対応できるようになりました。特に固定技術を磨くよう3年間努力いたしましたが、固定以外でも学べることは多くありました。中でも医師の考えを直接聞けることは、病院で働く者の特権だと感じております。自身が取った所見で推察した病態を、すぐに診察で答え合わせができ、とても勉強になりました。

米田病院は、自分の努力や志次第でいくらでも成長ができるように手助けしてくれる、最高の環境が整っています。もし、このメッセージに共感した方がいらっしゃれば、ぜひ米田病院へ入職して下さい。必要以上の環境が待っているはずで。

長くなりましたが、3年間お世話になりました。本当にありがとうございました。



大橋 礼明 さん
5 年間勤務

私が入職前に米田病院へ抱いていたイメージは、ハイレベルな志と技術を持った先輩方が鬼の形相でギブスを巻いているという感じで、自分もそこに入れば柔道整復師として成長できるのではないかと考え志望しました。実際に入職してみると、患者さんのために何をすべきか？そこに科学的根拠はあるのか？を考え、ギブスの1mmの切り残しや包帯のシワ一つ許さない程の妥協のない治療が行われていました。実技の授業が苦手なおおざっぱな性格の私は、要求される水準の高さに「こんなの出来るがわけない…」と愕然としました。しかし、先輩方が親身になって指導してくださり、出来るようになるまで何度も練習を繰り返すうちに、不安定な骨折など難しい症例に対する治療を任せていただけるようになりました。

また米田病院では、通常の診療業務の他に、救護活動や学術研究、イベントの開催なども重要な活動として行われています。私はアキレス腱班とOA・転倒予防班に所属し、研究データ収集、資料の作成、YouTube用の動画制作など様々なことを経験させていただきました。さらに院内の活動だけでなく、研究成果を学会で発表したり、運動教室を開催するなど活動を外部へ発信する機会もいただきました。どれも初めての経験であったため、手探り状態でなかなか進捗が得られないこともありましたが、しかし行き詰まった際には、医師の先生、先輩、同期、後輩、他部署の方々にサポートしていただき、ひとつひとつを形にすることができました。

このように米田病院は治療、研究、プライベートの活動、どんな形であれ頑張っている柔道整復師を応援し、支え合える場所です。最初はできなくても大丈夫です。「やってみよう」という気持ちで突き進めば、多くの経験、学びが得られると思います。

最後に、米田先生はじめ、皆様には5年間大変お世話になりました。本当にありがとうございました。



幾世 卓真 さん
5 年間勤務

柔道整復師専門学校の学生のときから、医接連携の重要性を感じており、病院からみた柔道整復師と接骨院はどうあるべきかを学ぶために病院勤務を希望していました。希望が叶い、米田病院で5年間の勤務機会をいただき、たいへん多くのことを学ばせていただきました。

1年目は新型コロナが流行し始めた年であり、病院にとっても大きく環境が変わる時期でした。密閉・密集・密接が禁止されるなかで、固定や整復の練習が制限されることになりました。限られた時間で、プリセプターの方々による厳しい指導の下で患者様の最善のために柔道整復師として最大限努力することを教えていただきました。

外来では多くの臨床症例を見る機会があり、接骨院から紹介されてくる患者様も多くいらっしゃいました。腰椎分離症や膝関節の前十字靱帯断裂など、安静にしていると症状が改善し治ったようにみえてしまうが、その後に無理をすると症状が進んでしまう病態の傷病について、ちょっとした身体の痛みで病院よりも気軽に通える地域のプライマリケアを担う接骨院が、適切に病院受診を促し早期発見し早期治療につなげることが重要であると、実際の臨床から学ぶことができました。

米田病院での貴重な経験を活かし最大限に社会へ貢献していけるよう、これからも精一杯がんばっていききたいと思います。

施設案内

310㎡の広々としたリハビリ室 (クリニック1F)



アスリハも可能なリハビリ室 (クリニック2F)



280㎡の広々としたリハビリ室 (病院)



リハビリ室 (病院) に直結した屋外テラス



MRI (2 機) をはじめとする様々な検査機器



患者さんにもスタッフにも優しい
ワンフロアの整形外科病棟 (54床)



整形外科に特化した手術室 (3 室)



YONEDAグループの米田柔整専門学校で
最新の各種医療雑誌や書籍の閲覧が可能



アクセス

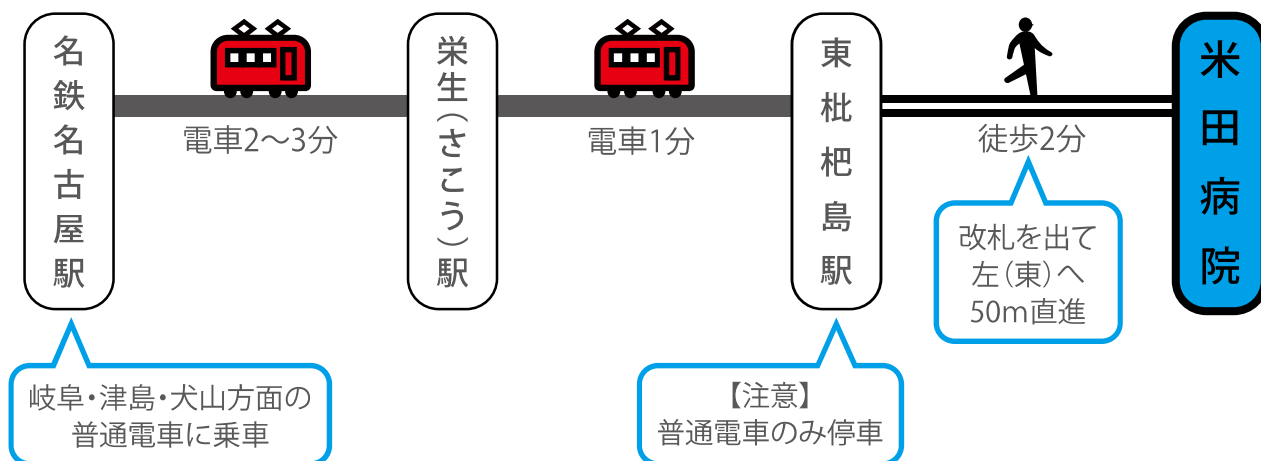
〒451-0053

愛知県名古屋市西区枇杷島一丁目11番5号

☎052-521-6406

■ 公共交通機関でお越しの方（名鉄）

名古屋駅から2駅、東枇杷島駅から徒歩2分。名古屋駅からのアクセス◎



■ 周辺地図

